

技術短期大学校

情報誌



熊本県立技術短期大学校情報誌

No. 25

平成23年3月発行

本誌は、技術短大についての様々な情報をお伝えしています。

編集 熊本県立技術短期大学校 情報誌編集委員

〒869-1102

菊池郡隈部町大字原水4455-1

TEL 096-232-9700

FAX 096-232-9292

URL <http://www.kumamoto-pct.ac.jp/>

E-mail kpct@kumamoto-pct.ac.jp

一年を振り返って

◆ はじめに

平成22年度を振り返って技短ニュースを発行いたします。

リーマンショック以来、経済環境は厳しい状況にあります。熊本のものづくり現場においても例外なく厳しい状況にあります。そのような中で、本校の目的であり実践技術者の育成を目指して色々な取り組みを行ってきました。

今回は、普段あまり発信されていない短大の情報について発信できればと記事作成にあたりました。したがってHPや学校案内では見られない情報を載せてありますので是非、ご覧ください。

◆ 学校運営・目標について

本校では、平成22年度の目標として、①就職内定率100%の回復、②FD教育を推進し教育の質を向上、③一般入試倍率2倍の確保、の3点を掲げ色々な施策を行ってきました。

まず、就職内定率ですが、昨年度は、その前年に起こったリーマンショックに端を発する経済環境の悪化を受けて、開校以来初めて100%を割りました。今年度も、その経済状況をそのまま引きするような大変厳しい状況であり、昨年以上に悪化することも懸念される中、職員一丸となって就職支援を行い98%を上回る内定率を確保することができました。本誌では、就職に関する年間のスケジュールと就職活動の課題・対策について紹介しています。

次に、教育の質の向上への取り組みですが、授業アンケート、公開授業、授業研究会、FD研修会等、ここ数年で格段にレベルアップしています。それとは裏腹に一部の学生たちの学習意欲が不足しているところが目立ち、周囲の学生への悪影響が懸念されています。加えて、活字離れやコミュニケーションや教養知識の不足などといった違った側面からの問題も浮上しています。本誌では、教務に関する活動内容と課題・対策について紹介しています。

なお、入試倍率に関しては、2.29倍という高い倍率を確保することができました。

今後とも、学生にとっては2年間という短い学校生活ではありますが、あらゆる機会をとらえて、職員が連携して学生指導を適切に行い、より良い人材を育成して行きたいと考えております。ご支援をよろしく願います。

◆ 学校生活

学校生活という面では、学生行事に関しては例年通り、学園祭

やスポーツ大会を実施してきたところですが、特に学生自治会を中心とした活動が活発に行なわれ、高等教育コンソーシアムに関わる外部とのコラボについて積極的に参加を行なった年でした。これからも自治会の積極的な活動を期待したいものです。

TOPICSでは、おめでたい話題を取り上げています。学生の入賞が2件、これは双方ともこれまで参加しながら1度も受賞できていない「ものづくり競技大会」でのことです。また、職員の方では、黄綬褒章というすごい受賞もありました。一方、今年度をもって3名の先生がご退職のということになります。本誌で思い出話を語っていただきました。

◆ 同窓会活動

最後に同窓会を紹介しています。今年度は、同窓会会長の野田泰さん（機械制御技術科（産業機械科）4期生）のもと、記念すべき「同窓会会報第1号」を発行されました。これをきっかけに今後ますます同窓会が活躍され、学校の応援団として組織強化を図られるとともに、これからも卒業生、在校生、教職員で協力してより良い学校づくりの一役を担って頂けることをせつに希望しています。

就職活動

(本校の就職活動計画や、就職の課題についてお伝えします。)

「就職活動の計画と課題・対策」

就職班 主査
電子情報技術科 教授 磯口 博



就職活動計画

◆ 年間の就職対策

月	対策	内 容
1月	第1回 就職講話	ハローワークの統括指導官による 就職事情、卒業生による就職活動体験談
2月	第2回 就職講話	企業の人事担当者による「企業が求める人材」について講話
	施設見学会・企業 面談会	県内外の求人予定企業を集め、 学生と企業側との面談を実施 H21年度実績：企業面談会参加 72社、施設見学会参加43社
3月	就職 説明会	保護者に対して就職状況、斡旋方法、 活動方法等について説明
	企業訪問	主に県内企業に求人依頼や施設紹介で 学科担当者が訪問（H22は168社）
	第3回 就職講話	企業研究、自己分析、自己PR、履歴書の 書き方、面接の受け方等について外部講師 による具体的指導
8月	第2回 企業訪問	インターンシップ受入れ依頼を中心として 県内の企業70社程度を訪問
10月	就職講話	1年生に対して早期に円滑な就職活動 に入るための講話を実施
11月	第3回 企業訪問	県内外の主に新規開拓企業を中心として 各学科15社程度
		企業実習（インターンシップ）
12月	求人依頼	県内外毎年1100社前後
		就職ガイダンス（次年度対応）



就職講話（本校大講義室）

就職の課題と対策

1. 求人企業の確保

現在「第二の氷河期」と言われる就職難線となっており、求人数が急激に落ち込んでいます。特に情報系職種において顕著で、就職希望者に対して有効な求人が確保できない状態にあります。全学科において、熊本県内の地場及び誘致企業の求人も少なくなってきており、県内企業の新たな掘り起こしと九州圏域を視野に入れた新たな求人の開拓が必要となります。

2. 学生の就職活動支援強化

厳しい就職事情の中、企業側がより優秀な人材を厳選しており、一次試験の筆記や作文等で不合格になるケースが増えてきました。さらに、面接におけるコミュニケーション不足も指摘されていることから、これらに対応するため、1年次の早期から、放課後に各クラスで筆記試験・作文、面接、企業研究、自己分析などの支援策を強力に指導しています。



企業面談会（本校体育館・講堂）



企業実習（杉養蜂園さんにて）

教務活動

（本校の教務活動や、教務の課題についてお伝えします。）

「教務活動と課題・対策」

教務班 主査
機械制御技術科 教授 益田 浩



教務活動

本校では、教育プログラムが社会の要求水準を満たすことを目標にしてさまざまな取り組みを実践しています。FD活動はそのひとつの例であり、以下にその具体的な事例を述べます。

(1) 授業アンケート

全ての授業において学生を対象とした授業アンケートを実施しています。内容は、授業に対する関心、担当教員の教え方、進め方等 17 項目あり、無記名によるマークシート形式のアンケートとすることで、学生の率直な意見を知ることができています。また、その結果は教員にフィードバックして授業内容、資料の改善等を行い、質の向上に努めています。

(2) 授業研究会

授業アンケートで指摘された改善提案を担当教員だけにフィードバックするのではなく、教員間で共有し、その原因と改善策について討議を行っています。提案内容は、教員が板書する文字が読みにくい、声が聞きづらいという指摘事項が明確な意見に対する改善案ばかりでなく、授業のシナリオ構成の改善を求めるような意見も寄せられています。この場では、学生からの意見とあわせて、教員間での指導法についての意見交換もでき、各教員の意識の向上にもつながっています。

(3) 公開授業

平常授業期間中の 3 週間、授業を全教職員に公開して自由に授業参観ができるようにしています。教員にとっては見られることへのプレッシャーと、学生にとっては普段にはない緊張感のもとで授業が行われます。参観者からは気づいた点が報告され、授業改善に向けたアドバイスを受けます。

(4) FD研修会

教員の資質向上を目的とした学外の有識者による研修講話です。教育力はもとより教育者としての見識向上とスキルアップを目指しています。

教務の課題と対策

(1) 勉学に対する取り組み意欲の低下

事例 就職内定後の 2 年生の一部に学業意欲の低下をきたしている学生が見受けられ、周囲への悪影響を及ぼすことがあります。

対応策

ア. 公開授業の活性化

正規の授業期間中に公開授業週間を設けてすべての授業に対して教職員による参観を行います。学生に対しては受講に対するマンネリ化を抑制するとともに、授業担当者に対しては教育内容と学生指導について意見を提言し改善を図ります。

イ. 学生意識の高揚

就職内定を得た安心感と卒業を実現できるという甘えが原因と考えます。卒業認定は厳格に行う指導を徹底するとともに、1 年生の範となる人格と能力を備えた 2 年生としてのプライド意識を持たせる必要があると考えます。

(2) 活字離れと教養知識の不足

事例 就職採用試験の不合格者が増加の傾向です。とくに一般応募の採用試験において顕著であります。一般常識

に関する筆記試験の成績が平均レベルに達していないことが一因です。

対応策

ア. 一般教養科目の充実

本校学生の素養と一般常識に関する知識を高めるために適した一般教養科目についてさまざまな意見を取り入れて充実に図ります。

イ. 活字離れ抑制対策

専門書志向に偏りがちであった図書館の蔵書を見直し、教養図書の実用を図るとともに図書に触れやすい環境づくりを実現します。

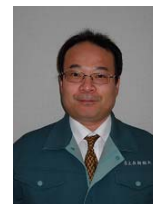
学生生活

(学生の行事や活動状況等、技術短大の学生の動向についてお伝えします。)

「学生自治会に感謝！」

学生指導班 主査

情報通信技術科 准教授 福永 隆史



本年度は、学生自治会が中心となり学生自身が積極的に活動し、「菊陽町すぎなみフェスタ」、「みずあかり」、「フェアトレ文化祭 in くまもと」、「学園祭合同パレード」など、地域の方々、他の学校の学生とふれあう新しい機会を多く得ることができました。

また、企業実習においては、お忙しい中、多くの企業の方々が実習生を受け入れてくださり、学生にとって貴重な経験となりました。

春・冬のスポーツ大会も好天に恵まれ、活気ある競技大会となりました。学生の皆さん、とくに学生自治会メンバーにお世話になった一年でした。



(学生自治会活動)

主な学生行事紹介

学生自治会を中心として開催された主な学生行事を紹介します。各学科、各学年の自治会メンバーは、学校内部行事の企画・立案・実施に携わり、また、外部では、高等教育コンソーシアムの行事に学校代表で参加しました。

◆ 主な学生行事（学生自治会）

4月 学生自治会定期総会

新自治会長の挨拶、各学科各学年自治会役員の紹介、自治会の役割説明と昨年度の自治会費収支決算報告。

5月 春季スポーツ大会

バレーボール、ドッジボールを実施。

昼食はバーベキュー。

10月 高等教育コンソーシアム学生交流推進部会活動

熊本城にて行われた「みずあかり」に大学・短大14校の合同ブースを設け参加。

学園祭合同PRとして下通近辺をPRパレード。

10月 NHK 大学対抗映像コンテスト

九州ルーテル学院大学、県大 他、大学・短大7校が参加。テーマは「記憶」。

11月 学園祭（技短祭）

メインステージでは、仮装大会、コーラ早飲みなどのゲームを実施。各学科各学年は、屋台を実施。

学校主催で「オープンキャンパス」を実施。

11月 菊陽町すぎなみフェスタへ出店参加

地域との交流活動として菊陽町恒例「すぎなみフェスタ」に出店。物作り体験教室開催。

12月 「フェアトレ文化祭 in くまもと」に参加。

サークル活動については、正直言ってそれほど活発ではありません。これまでも多くのサークルが発生しては消滅するというのを繰り返してきました。短大ということで、学生生活が短い分、引継ぎが、うまくなされていません。

それでも、運動部では、ソフトボール、サッカー、テニス、バスケット、バドミントン、ダンスなど、文化部では軽音楽、など活動実績は、数多く残されています。新入生がサークルに所属し活動していたかと思うと、すぐ就職活動が始まります、そのうちに卒業研究で忙しくなり、そして卒業を迎えるのです。

平成22年度は、ダンスサークル、軽音楽、バスケットボールが目立って活動を行っていました。

本校は、体育館もグラウンドもテニスコートも揃えていますので、これからもサークル活動を支援していきたいです。是非、短期間でもサークル活動を通して学生生活を楽しく充実させてほしいと願っています。



(ダンスサークル)

学生自治会長紹介

「学ぶことの多かった自治会活動」

平成22年度 学生自治会

会長 高添翔大



平成22年度の学生自治会会長を勤めさせていただきました、電子情報技術科2年の高添翔大です。

自治会では、春季・冬季スポーツ大会、学園祭（技短祭）、卒業アルバム作成、謝恩会の開催などを行ってきました。

一番私の心に残っているのが、技短祭です。技短祭は、企画することや準備するものが多く大変でした。しかし、技短祭の準備を通して敬語の使い方やスケジュール管理の大切さを学ぶことができました。

私は、自治会活動を通して様々なことを学びました。このような経験をこれからの社会人生活に活かしていきたいと思います。

先生方、保護者の皆様、私たち学生自治会の活動に協力していただき、ありがとうございました。

サークル紹介

高等教育コンソーシアム紹介

高等教育コンソーシアム熊本は、熊本県内にある大学・高専が協力して、教育・研究の充実を図ることにより、地域の行政や産業界と連携しながら、地域社会の教育・文化の向上・発展に貢献し、あわせて熊本の教育環境の向上に寄与することを目的として平成18年度にスタートしました。

本校も平成19年に加盟が認められ、県下13の大学・高専と協力しながら活発な活動を行っています。

活動は、高等教育機関における教育・研究分野の充実を図り、地域高等教育力を向上させるための取り組み、高等教育機関における学生の自主的活動や、横断的な学生交流を支援し、活気ある学生の街づくりへの取り組みや高等教育機関と行政・産業界・市民等との連携を促進し、地域のシンクタンクとしての取り組みを行うなどの5つの分野において、高大連携や高等教育の在り方等に取り組んでいます。



(学生自治会活動)

TOPICS

(今年度、短大にとって、うれしい出来事や気になる出来事を紹介します。)

受賞(黄綬褒章)

「平成22年度 秋の黄綬褒章受賞」

精密機械技術科
指導員 松本 孝幸



今回の受賞はとても嬉しく、また光栄に感じています。

受賞はこれまでご指導いただいた三菱電機・ルネサスエレクトロニクス株式会社の上司・同僚そして開発にあたって協力頂いた取引業者の皆様のお陰だと思っています。

今年から、精密機械技術科の指導員として後進(学生)の人材育成にあたることになりました。自分で考え、作り上げる事の出来る技術者を育てるのに尽力を注いでいきます。

私自身これまで幾多の困難を乗り越えながらコツコツと積み重ねてきたことが認められたのだと思います。このような黄綬褒章を頂いたことが若い人たちの励みになればと思います。

卒業生が企業で活躍してくれることを願っています。

受賞(若年者ものづくり)

「平成22年度 第5回若年者ものづくり競技大会
機械製図(CAD)部門 第3位」

精密機械技術科 2年
吉岡 幸次郎



私は、CAD (Computer Aided Design) に興味があって、この競技大会に出場しようと思いました。大会当日、全国からの代表者が集る会場に入ったときには、さすがに緊張しました。しかし、私も放課後や、休みの日に練習してきた自信がありますので、できれば入賞したいと思っていました。表彰式で名前を呼ばれたときは、大変うれしかったです。

私は、技術短大を卒業後は、北九州の九州ポリテクカレッジに進学します。北九州に行っても、技術短大でいただいた銅メダルを胸にこれからも技術を磨き、将来は設計開発関連の仕事に就きたいと思っています。

ご指導いただいた先生方と応援してくれたクラスの人々にも感謝しています。ありがとうございました。

受賞(九州ポリテックビジョン)

「九州ブロック ポリテックビジョン2011
機械加工技術コンテスト 第2位」

精密機械技術科 1年

江藤 豊記(旋盤加工部門)

皆越 晋太郎(フライス盤加工)



平成23年2月19日、九州の技術短期大学4校が集まって行われた機械加工競技会で、共に第2位という素晴らしい結果を残すことができました。

《大会を終えた二人の感想》

江藤君：今回の大会では、準優勝という成績を残すことができ良かったです。夏の若年者ものづくり大会は厳しい大会になると思うので、また入賞できるように日々の練習を頑張っていきたいと思います。

皆越君：今回、少ない練習時間の中で、4人で力を合わせて頑張ったので入賞できたと思います。また応援してくださった皆様には感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。夏に向けてこれからも4人で力を合わせて頑張ります。



(旋盤競技)



(フライス盤競技)



(機械製図CAD競技)



(九州ブロックポリテックビジョン2011は、上の旋盤とフライス盤競技、第5回若年者ものづくり大会は、機械製図CAD競技。)

師曰く (退職の挨拶)

「退任にあたって」

指導部長 佐藤 正幸



短大設立準備から数えると、ちょうど20年間、この短大に関わってきましたが、今年の3月末をもちまして定年退職することになりました。この場をお借りしまして、在職中お世話になりました皆様に、厚くお礼を申し上げます。

開校当初は、まばらだった桜の木も、見事に咲きほこるようになり、月日の流れの速さを痛感しています。このようなすばらしい環境のもとで学生と共に、勉学に励んでこられたことを深く感謝しております。

本校の特長の一つに少人数教育があります。1クラス22名に専任教師が6名配置され、理想的な教育環境が整えられています。その特長を活かし、非常にアットホームな学級づくりが行われ、教員と学生が和気あいあいと過ごしていた開校当初と比べ、最近は何となくその辺が、少しもの足りないような気がしています。恵まれた環境が与えられているということを今一度再認識し、それをもっと活用して頂きたいと思っています。

次に、最近はコミュニケーション能力が不足している学生が多いように思います。コミュニケーション能力というとなんだか難しいように感じられますが、まずは大人としての会話能力だと思います。普段から、きちんとした大人同士の会話をしていけば、自ずと身についてくる能力だと思いますので、ご両親におかれましては日々の会話を通して、ご協力頂ければ幸いかと思っています。私も、退職後は引き続き技術短大で勤務できることになりましたので、学生と大人としての関係を培っていきたくと思っています。

最後に、皆様のご多幸と、技術短期大学の益々の発展を、心より祈念しております。

師曰く (退職の挨拶)

「退職にあたって」

機械制御技術科
准教授 上村 武



本校の開校時からこれまで、永きにわたりお世話になりました。お礼を申し上げます。退職に際し、一筆書くように依頼されましたので、つれづれにつたない文章を書きました。

本校に勤務するまでは、民間会社で機器構造物の健全性の研究や事故原因究明・対策などの仕事をしていました。企業内での共同研究、企業派遣講師、学会の研究会等を通じて、若い人たちと勉強することの喜びを覚えたことが転職の契機になりました。

転職に際し、この新設校の設立の趣旨に沿って、栄える道はなにかと自問しました。折から就職難、高い就職率が他の教育機関との差別化となり、特徴が出せるのではないかと考えたのが、就職に躍りになった動機です。

先生方と手分けして、訪問企業先に学校名を覚えていただくのに奔走した記憶は新しいものです。熊本県内の会社の多くは中小企業です。キラリと光る企業が多くあります。これらの企業では新卒者でなく中途採用者で人材を確保される場合もあり、これは学生の目が県外に向いていることにも一因がある、ことを知りました。時間をつくっては企業の経営者の方々と、「生え抜きの技術者を育てることの大事さ」を話し合った記憶が蘇ります。そういう思いがあるため、卒業生が離職すると非常に寂しく感じます。

一方、卒業後学校に遊びに来てくれる卒業生に会うのは、うれしいものです。新しい世界で活躍している卒業生の目は輝いています。ある卒業生が訪ねて来たことがあります。授業の前段に企業人体験談を短く話していただきました。その卒業生は当惑しておりましたが、無理にお願いしました。短い話でしたが、体験に基づく話であったため実感がこもっていて、いい話だったと私は思うのですが、聴講した学生に感想を聞くことを忘れたのは残念です。

ところで期末試験の最中に「試験のときは悪かったが、内定をもらっているから、卒業できる」と在校生が話しているのが耳に入り、寂しく感じました。「就職が決まったからこそ、就職先で活躍できるように、残り少ない学生生活、技術・技能を磨く気持ちが欲しい」と思っているのは、私だけでしょうか。



師曰く (退職の挨拶)

「退任にあたって」

情報通信技術科
准教授 瀧口 透



本年度末をもって退任いたします。

7年間本校にお世話になり、学ぶところも多く、感謝いたしております。なかでも、学生に「教えること」、「理解してもらうこと」の難しさを痛感し、結局うまく伝えられないまま、退職することになり非常に残念に思っております。

本校に勤務する以前は、民間企業で新入社員の教育なども経験してまいりましたが、それとは全く別物であったこと、私にとって貴重な、また有意義な経験となりました。

今後もこれらの経験を生かし、充実した社会生活を営めるよう努力して参ります。

最後に、多大なご支援、ご鞭撻を頂いた職員の皆様に感謝申し上げます。

卒業研究

(本校の卒業研究テーマをご紹介します。)

精密機械技術科

- ・ 電動ワイルドカーの改良とスネークねじの試作
- ・ ピンポン球ピッチングマシンの設計・製作
- ・ カセット式射出成形金型の設計製作—H21 年度方式の改良—
- ・ ワイヤー放電加工の加工精度に関する研究
- ・ 機械加工手順の検討
- ・ オルダムリングの挙動解析とその研究
- ・ 手動加工機械(氷削り機)の試作
- ・ 機械CADの効果的習得とものづくり
- ・ ミニNC 旋盤の改良—主軸陪改良と心押し台増設について—
- ・ プレス金型の設計製作 ~紙の打ち抜き~

機械制御技術科

- ・ 疲労強度特性の推定に関する研究
- ・ 機構装置の復元設計演習課題の開発 (その1)
- ・ 機構装置の復元設計演習課題の開発 (その2)
- ・ 羽ばたき機—はばたき角度と飛行の関係—
- ・ 2輪形倒立振子の安定化制御
- ・ CD搬送ロボットの設計製作 (マイコン制御)
- ・ CD搬送ロボットの設計製作 (PLC制御)
- ・ CD搬送ロボットの設計製作 (ステッピングモータ駆動)
- ・ 旋回運動のみで全方向移動可能な二足歩行メカニズム
- ・ 手術用開胸器の再設計

電子情報技術科

- ・ AKI-H8/3048F における AKI-H8/3069 環境開発
- ・ PIC18F4520 での通信環境の開発
- ・ CMOS—XOR/ XNOR ゲートによる微分型動作単安定マルチバイブレータの検討
- ・ 授業用マイコン教材の開発
- ・ 文字情報表示基板の改良設計・製作と動作検証
- ・ 液晶ディスプレイの光学特性解析
 - 輝度・色度特性の視野角依存性—
- ・ 液晶ディスプレイの中間調表示特性解析
 - 肌色の選定と視認性の人間工学的評価—
- ・ 競技用ロボットの製作と改善
- ・ 画像処理を用いた自立型移動ロボットの製作

情報通信技術科

- ・ Web アプリケーションシステム開発—教務情報管理システム—
- ・ Thunderbird アドオン開発—拡張機能検討・試作—
- ・ CMS の設計と実務の研究
- ・ コモディティな PC クラスタ性能向上手法の研究
- ・ 1対N 大量データ配信システム通信速度改善研究
- ・ 情報通信システムの電磁ノイズに関する研究
 - 簡易磁界センサに関する研究—
- ・ MPI による並列アルゴリズムの研究
- ・ 顔認証を用いたインターホン転送システムの試作

情報映像技術科

- ・ FPGA を用いた CCD イメージセンサの画出し環境作製 (ハード編)
- ・ FPGA を用いた CCD イメージセンサの画出し環境作製 (ソフト編)—VC による画像表示および現象処理プログラム—
- ・ WEB アプリケーション開発 (アンドロイド、JRails)
- ・ XNA のゲームプログラミング
- ・ 数独解法のプログラム
- ・ 画像処理による楽譜の解法および再生
- ・ JAVA によるピアノ演奏システム
 - java アプレットと HTML の統合—
- ・ 組込み java による複合機上で動作する家計簿システムの開発
- ・ Moodle と MPMeister を用いた e-Learning システムの構築
- ・ H8 マイコン用リアルタイム OS の試作
- ・ 技術短大における太陽光発電の情報視覚化
- ・ iPod touch による暗号 Web アプリケーションの開発



同窓会活動

(本校同窓会の活動状況についてお伝えします。)

熊本県立技術短期大学校同窓会
会長 野田 泰



皆様初めまして。同窓会二代目会長を勤めさせていただいております産業機械科4期生の野田泰です。今年度は、皆様のご協力のおかげで会報第1号を発行することができましたこと大変感謝しております。誠にありがとうございました。同窓会設立より8年間、これまで学校への支援をメインに活動を行ってまいりましたが、今後は在校生のみならず、卒業生の皆様への情報開示も含め、活動の和を広げていきたいと考えております。

当会は、ようやく1,076名の卒業生が社会人として活躍し始め、まさにこれから本格的な同窓会活動を行う時期にきているといえます。しかし、現在の同窓会の運営は同志のボランティアで成り立っていると言っても過言ではありません。会長の私、副会長を始めとする理事の方々だけでは人手が足りず、先生方、自治会を中心とした在校生の多大なご協力を頂いて運営を行っているという状況です。また、事務局は学校の教務学生科内に設置させて頂いており、教務学生課長をはじめとする事務の皆様方に支えられております。

同窓会設立10周年に向けて同窓会の環境整備を含めた運営に着手し、継続的に事業がなされるよう取り組んでいきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

今年も技短祭(学園祭)に参加させていただきました。「親子で出来るフラワーアート」と「クロスパズルの作成」を行い子供達にものづくりを楽しんでもらいました。



《同窓会活動》

- ◇ 2002年 : 同窓会設立準備
- ◇ 2003年 : 「熊本県立技術短期大学校同窓会」設立
- ◇ 2004年 : 卒業生への会費納入依頼開始(郵送)
技短祭への参加開始(同窓会ブース設置)
- ◇ 2005年 : 自治会支援開始(運営手法等)
図書寄贈
- ◇ 2006年 : 入学時の一斉同窓会費徴収開始
- ◇ 2007年 : 熊本県立技術短期大学校創立10周年
記念式典費用寄贈
- ◇ 2009年 : 第二テクノパーク内、学校案内看板設置
- ◇ 2010年 : 会報第1号発行

平成24年度 入試情報

(本校の来年度入試についてお伝えします。)

1. 《推薦入試概要 (前期)》◆ 募集科・募集人員

科名	*専門学科(理数科を除く) ・総合学科	備考
精密機械技術科	9名程度	各科とも修業年限 2年
機械制御技術科	9名程度	
電子情報技術科	9名程度	
情報通信技術科	9名程度	
情報映像技術科	9名程度	
計	45名程度	

出願手続き:平成23年9月1日(木)から14日(水)

入 試 日:平成23年9月25日(日)

合格発表:平成23年10月5日(水)

2. 《推薦入試概要 (後期)》◆ 募集科・募集人員

科名	募集人員		備考
	普通科・理 数科	専門学科(理数系を除く) ・総合学科 *推薦(前期)入試において 不合格となった者の再出願は不可。	
精密機械技術科	4名程度	若干名	各科 とも 修業 年限 2年
機械制御技術科	4名程度	若干名	
電子情報技術科	4名程度	若干名	
情報通信技術科	4名程度	若干名	
情報映像技術科	4名程度	若干名	
計	20名程度		

出願手続き:平成23年11月7日(月)から18日(金)

入 試 日:平成23年11月27日(日)

合格発表:平成23年12月7日(水)

3. 《一般入試概要》◆ 募集科・募集人員

科名	募集人員	備考
精密機械技術科	9名程度	各科とも修業年限2年
機械制御技術科	9名程度	
電子情報技術科	9名程度	
情報通信技術科	9名程度	
情報映像技術科	9名程度	
計	45名程度	

出願手続き:平成24年1月5日(木)から18日(水)

入 試 日:平成24年2月5日(日)

合格発表:平成24年2月17日(金)